

14. 関係団体等

厚生労働省の数理・デジタル職員は、厚生労働省や他の中央省庁などで勤務する以外にも、数理的な素養やそれまでの業務を通して習得した知識やデジタルの知見等を活かせる様々な関係団体や研究機関※でも活躍しています。

※数理・デジタル職員の活躍している関係団体や研究機関などの例

全国健康保険協会（協会けんほ） → 主に中小企業で働く従業員とその家族の健康保険を運営する組織です

日本年金機構 → 我が国の公的年金制度の運営を国から任せられている組織です

年金シニアプラン総合研究機構 → 年金制度と年金資金運用および年金生活に関する専門研究機関です

労働政策研究・研修機構 → 内外の労働に関する事情や労働政策について調査や研究等を行う機関です

COLUMN

数理・デジタル職員の活躍フィールド 「社会保険診療報酬支払基金」編

社会保険診療報酬支払基金（支払基金）は、主に被用者保険における診療報酬の「審査」と「支払」を実施する機関であり、年間12億件以上のレセプト*を取り扱っています。膨大なレセプトの審査業務を効率化するためにAI（人工知能）を導入し、人による審査を必要とするレセプトと必要としないレセプトへの振分機能を令和3年9月に実装しました。レセプト振分機能には、類似レセプトのグループを高速に作成することができるminhashと決定木による分類モデルであるxgboostという2種類のAIを活用しています。この設計等には数理・デジタル職員が携わるなど、現在も推進している審査業務の効率化・高度化の一翼を担っています。

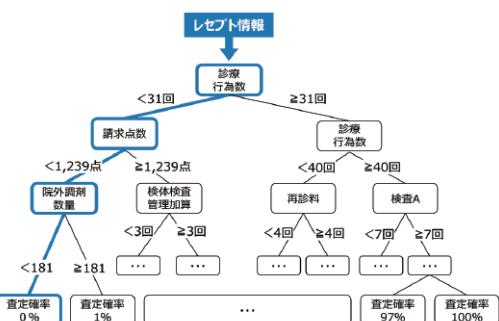
また、支払基金では令和4年度からレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）に関する業務を受託しています。NDBはクラウド

上に構築された約250億件ものレセプトデータ等を保有する大規模なデータベースです。個人情報を削除したレセプト情報等とともに「ハッシュ関数」を用いて生成した識別子も格納して同一人物のレセプト情報を特定することが可能になっており、今後は、NDBだけではなく、他の公的データベースなどとの識別子を用いた連絡が進められ、より利便性の高い環境整備が図られていきます。

こうした業務を企画・遂行するに当たっては、AIを始めとしたデジタルテクノロジーやビッグデータの活用スキル、システム開発・運用に関する知識などのデジタルに関する知識や技能が必要となっており、医療分野におけるDXが推進される中で、デジタル分野に強みを持った職員の活躍の場がますます拡がっています。

※ 保険医療機関等が1か月の医療費を被用者保険の保険者等に請求するための明細書

xgboostによる振分（決定木）イメージ



医療等のデータ利活用のための今後のクラウド環境

